

[別紙2]

## 審査の結果の要旨

氏名 近藤 祐嗣

本研究は、慢性肝疾患患者の健康関連の生活の質 (Health-Related Quality of Life、以下 HRQOL) について、肝細胞癌の合併の有無により比較検討したものであり、以下の結果を得ている。

1. 慢性肝疾患患者の HRQOL は、肝細胞癌合併患者（肝細胞癌に対する経皮的局所療法治療歴のある患者）、肝細胞癌非合併患者とも、健常人と比較し、低下している。
2. 肝細胞癌に対する経皮的局所療法治療歴のある患者の HRQOL は、肝細胞癌合併のない慢性肝疾患患者と比較し同等である。
3. HRQOL には、癌合併の有無よりも、背景肝機能が強く関連し、血清アルブミン値は、HRQOL の予測に適している。

以上、本論文では、慢性肝疾患患者の HRQOL は健常人より低下しており、HRQOL が、肝細胞癌合併の有無には左右されず、背景肝機能に強く影響されることを示した。比較的早期に肝細胞癌が発見され、経皮的局所療法にて根治的に治療出来、比較的長期生存を得られている患者の HRQOL は、良好に保たれていると考えられた。また血清アルブミン値が HRQOL と強く関連しており、患者の HRQOL 評価に有用であることを示した。本研究は、慢性肝疾患や肝細胞癌の臨床において重要になりつつある患者 HRQOL の解明につながり、患者ケアの向上に貢献すると考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。

尚、審査会時点から、論文の内容について以下の点が改訂された。

1. 対象と方法において、対照群（慢性肝疾患群、肝細胞癌非合併）の構成法が不適切であったため、適切なものに修正した。またその方法につき詳細に記述した。
2. 結果において、性別、年齢、アルブミン値等の重要な因子につき層別解析を追加した。
3. 考察において、肝細胞癌合併群の集団の特性、バイアスが入る可能性につき記述した。